

静岡市わかもの会議 最終報告を行いました！
 静岡市長や市幹部、来場者の市民の皆さんを前に、各チームごと発表。
 それぞれの提案に対してコメントをいただきました。
 また、後半は来場者の方々と意見交換を行い、実現可能性や具体化に向けての
 アドバイスを頂きました。その一部をご紹介します。



～若者が「住んでみたい」「住み続けたい」と思うまち～

提案 静岡市を「日本一働きやすく、住みやすいまち」に。

休みが取れない、残業代が支払われない…労働問題は若者にとって、身近で深刻。こうした労働問題を相談できる窓口と、労働問題について若者同士で気軽に話ができる交流会を開催すること、そしてそれらを実施する団体の創設を提案。気軽に相談、参加できる機会をきっかけとし、弁護士や専門機関と連携して問題解決につなげていきたい。

✕✕✕ 若者にとって切実な問題を課題として取り上げていただいた。交流会とか、相談窓口については、行政としても取り組んでいるが、ご提案の通り、国・県・市が連携し、また関係団体とも手を取り合って若者の労働環境を守っていかなくてはならない。（赤堀経済局長）

提案 静岡限定！～日本一コスモポリタンを目指す～

「異文化交流したい」「留学生と交流したい」という若者が多い一方で、市内には、若者が興味を惹かれる国際交流の機会が少ない現状がある。そこで、私たちが自ら国際交流の機会をつくり、静岡市でしかできないことを企画していくことと、ホームページやSNSを作成し、動画や体験談など参加したくなるコンテンツを充実させるなど国際交流のPR方法の改善を提案。

✕✕✕ 「ISSUE（問題点）」はどこか、その絞込みが大事。国際交流という大きいところから入ってきたが、自分たちのやれるところから、ストーリーをもってやれば絶対そこに到達する。ホームページやSNSも分かるが、自分たちの見つけた「ISSUE」に対して、できることから、まずは始めてみたらどうか。（中島政策推進統括監）

提案 ぼくらがつくるちいくのじかん。

社会で生きていくには「問題解決能力」や「コミュニケーション能力」が必要と大人たちよく言われる一方で、学校（高校）ではこれらを学ぶ機会がない。だからこそ、学校の授業として、正解のない問題に友人や地域の人たちと一緒に取り組む地域学習の時間「ちいくのじかん」が必要。「ちいくのじかん」によって、シチズンシップに富んだ若い市民が育つ。

✕✕✕ 「シチズンシップ」という言葉は非常に大事で、教育委員会も同じ意識である。気持ちや知識だけでなく行動力のアップこそ重要。そういう場をどう設定するか、教育委員会も、大人も考えていく。皆さんとも、意見交換をする場ができたらいと思う。（高木教育長）

提案 静岡市 地域センパイ制度。

自分の実体験から、進路のことや学校のことを、親や先生、学校の友人以外で、気軽に相談できる先輩が地域にいることは素晴らしいことだと考える。独自にとったアンケートでも、年上の人と話すことは有益と考える若者は多い。悩みを抱えた若者が、地域の先輩と交流できる「OB OG会」を提案。若者が地域に入っていくきっかけにもなる。

✕✕✕ 昔と違って、地域の結びつきが希薄といわれているが、地域や将来を考えるための新しい器が求められているのかもしれない。わかもの会議イベントの際「身近な先輩の考えや行動にふれることで、このまちに住みたいと思うようになった」という若者がおり、若者が先輩と出会える場所は非常に大事だと思った。（平松子ども未来局長）

会場から

- ・雇用の問題は若い方だけではなく、社会全体の大きな問題であることから、最も緊急性が高い。
- ・市に頼って…ではなく、自分たちで回りに声をかけ、説得していく形、がむしゃらな感じが必要。がんばって。
- ・若者や地域と言う言葉は非常に便利だが抽象的なので、具体的に考えると分かりやすい。
- ・高校の同窓会がまさにOB OGといえるのでは。また「第2の自治会」とならないように。
- ・「ちいくのじかん」について学校に入り込むことはハードルが高く難しい、教育委員会のバックアップがあるとより具体化するのではないかな？
- ・聞いていて、それぞれの提案が重なっているところもあった。

約50名の市民の皆さんがお見えになりました！



・・・まだまだたくさんのご意見をいただきました。

- ・若者の特権は、現状に異議申し立てができること。大人が一定の水準で満足していても、さらに良い静岡市を目指し、社会的関心をもって議論を続けたことはエールを送りたい。
- ・市民の税金を使って、この場を作っていることから、本音で感想を申し上げるのが誠意であり、そうした視点でコメントするのであれば、本日の提案では、まだ現場の声が足りず、未熟に聞こえてしまった。
- ・安易に「市にやってもらおう」「市の補助金にたよろう」という時代ではない。結局、自分が動かなければ変わらない。
- ・プレゼンのなかで「提案は未熟でも、思いは本物」という言葉がでたが、本気ならば、責任を持って、そのことを今後10年間に渡って追求できますか？ということをお願いしたい。本気でなければ、この場は学校の授業と変わらないものになってしまう。本日の報告会は、中間報告と受け止めた。今後10年間、問い続けて欲しい。
- ・人生を充実させるための秘訣は、多くの人と会うことである。特に20代での出会いは非常に重要。そういう意味では、わかもの会議で集まった19人同士の出会いは素晴らしいものである。この出会い大事にして切磋琢磨し、自分を磨き上げ、さらに今もっている社会的な関心を掘り下げて、社会を変える原動力になってもらいたい。

市長から

